

〈指導教授推薦文〉

指導教授 川久保 美智子

木村逸人「中国における日中合弁企業の現状」

本論文は、その題文の通り日中の中の合弁企業の現状を分析しているものである。現状分析という言葉から考えると、焦点が明確に表れてこない可能性があるが、本論文は、読み終わった後にそのような印象を与えない。それは、合弁企業の分析をなぜするのかという理由が、日本側から、中国側から、そして日中経済関係の面から説明されており、それを根底に置いた上で様々な角度から分析が進んで行くからである。もう一つの特徴は、その長さにもかかわらず、読んでいて飽きることがないという点である。ただ文章を羅列しているというものではなく、表や図・グラフ等が多く描かれている。それにより視覚的に確認できる部分では、できるだけ文章が省かれており、要点がまとめられているとも言えるだろう。また、これらの表やグラフは、すべて本人が独自に作成したものである点も、評価できる点である。

なお、本論文は100ページであったものを20ページに縮小したのでほとんど原型をとどめず要約のようなものになっていることを付記したい。オリジナルの論文に関心のある方は川久保までご連絡下さい。

〈指導教授推薦文〉

指導教授 浅野 仁

高橋俊雄「公的介護保険制度の課題と今後の方向—日独の意識調査を踏まえて—」

2000年4月に導入が予定されている「公的介護保険制度」は、40歳以上の国民全員を対象にした社会保険制度であるとともに65歳以上の高齢者に対して医療、保険、福祉サービスを本制度の下で総合的に提供する革新的な制度であり、関係者のみならず国民的関心を喚起しているテーマとなっている。

本論文は、1995年にすでに導入されたドイツの介護保険制度を参照しながら、日独両国民の本制度に対する意識を比較考察することによって、わが国が現在検討しなければならない課題と今後の対応策について論じている示唆に富む論文である。

社会学部優秀論文賞候補に推薦した理由は、1. 労力を要する国際比較調査を実施し、適切な分析を行っていること、2. 入手し得る必要な文献、資料に目を通し、論文内容にそれらを引用していること、3. 本論文の結論と提言は、今後わが国が導入までに検討すべき内容が盛り込まれていること、である。

残念なことに、本論文は、本誌の紙幅の制約のため原論文の3分の1程度に要約した内容になっている。より詳細な内容に関心のある方は原論文をお読みになることをお勧めしたい。